

令和元年度（2019年度）行政評価シート【個表】

令和元年7月5日

評価対象事業		評価者	下水道河川課担当課長 加藤 隆志		
都整-28	実施事業	管渠維持管理費(特別会計)	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課	下水道河川課
			<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課	浄化センター、道水路管理課
総合計画上の位置付け	分野	下水道・河川	施策の方針	下水道の整備・管理	

1 事業の目的

対象	市民等
意図	既存管路施設の機能維持を図り、流入汚水の処理を継続して、適正な施設機能の維持管理を行うため。
効果	既存管路施設及び汚水送水施設の機能維持と延命を図る。

2 平成30年度(2018年度)に実施した事業の概要

<ul style="list-style-type: none"> ・管路施設内の堆積物の除去、伏越箇所浮遊物・堆積物の除去・清掃や蓋の不具合による振動・騒音の解消及び ・道路陥没の原因となる破損した取付管等の 修繕や布設替えを行った。 ・前年度からの繰越明許費により、西部圧送管路面復旧等工事を行った。
--

3 事業費等基礎データ

データ区分	29年度(2017年度)決算		30年度(2018年度)決算		01年度(2019年度)当初予算		備考
	人口等のデータ	人口	176,466人	176,308人	人口	176,436人	
	世帯数	81,150世帯	81,763世帯	世帯数	82,444世帯		
	事業の対象者数			事業の対象者数			
運営資源状況	決算値(千円)	105,760	168,732	当初予算(千円)	108,835		
	国県支出金			国県支出金			
	地方債			地方債			
	その他	100,472	160,295	その他	97,951		
	一般財源	5,288	8,437	一般財源	10,884		
	人員配置数	2.1	2.1	人員配置数	2.1		
事業経費運営	人件費(千円)	16,357	16,606	人件費(千円)	16,355		
	総事業費(千円)	122,117	185,338	総事業費(千円)	125,190		
	市民1人当りの経費(円)	692	1,051	市民1人当りの経費(円)	710		
	対象者1人当りの経費(円)			対象者1人当りの経費(円)			

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効率性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥当性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	2. 増大している
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい	3. 廃止・休止による影響は大きくある
	今後も市が実施すべき事業か	5. 豊かな市民生活に寄与することから、今後も市が実施する必要がある
有効性	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	3. 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している
公平性	受益者負担は公正・公平か	○-1. 既に受益者負担を求めているが、今後、その額や対象等を再検討する必要がある
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	△-2. 市民等と協働して事業を実施することはできない 協働実施済の場合のパートナー

事業内容の方向性	<input type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す →	見直しの種類	<input type="checkbox"/> 拡大	見直しの内容	
	<input checked="" type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする		<input type="checkbox"/> 縮小		
	<input type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する		<input type="checkbox"/> その他		
	<input type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する →				事業へ統合
予算規模の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> A: 予算規模を拡大する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由	施設の老朽化が進行しており、維持管理に関する予算規模を拡大する必要がある。		
	<input type="checkbox"/> B: 予算規模は現状維持とする				
	<input type="checkbox"/> C: 予算規模を縮小する				

総評(評価に対する考え方、根拠等)	市民生活に直接関わりのある重要な事業であることから、事業は妥当である。定期的に清掃・しゅんせつしている以外にも、管渠の閉塞等で作業を実施する箇所があり、事後保全型の対応となっている。また、管渠の老朽化が進んでいる旧市街地や大規模団地の下水道施設での閉塞、破損が度々発生しており、使用者に制限を与えてしまう事から、対応には緊急性を要する。さらに道路陥没等の発生の原因にもなり得る。予測が不可能な事項であるため職員の休日待機や時間外勤務という課題、及び施工業者の確保の問題もある。
-------------------	--

平成30年度(2018年度)事業実施にあつた課題(前年度未解決の事項を含む)	・老朽化が進んでおり、汚水樋や取付管に木根が侵入して、下水が円滑に流れなくなる事例が年々増えている。
課題解決のために行った平成30年度(2018年度)の取組	・破損箇所から木根が侵入し詰まりを起こした取付管については、再発防止のため積極的に布設替を行った。
未解決の課題、新たな課題とその理由	・標準耐用年数を超えた管路(管渠及び蓋等)に対する老朽化対策が十分にできていない。 ・施設台帳の電子化が進まないことから、修繕履歴などの明示がないため施設の状態把握ができていない。

- 解決
 一部解決
 未解決

◎ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	管渠維持管理費(百万円)H30版神奈川県下水道事業 平成29年度末 処理区域面積(ha)平成30年度版神奈川県下水道事業 平成29年度末								
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市
他市実績	163	565	266	138	239	539	14	43	7
	2411	4750	2227	3495	2512	5857	353	864	214

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	
----------------------	--

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	管渠しゅんせつ延長					単位	km	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	毎月行っている箇所もあり、しゅんせつ箇所としては、約7.9km。		
目標値は、小町通や仲通などで実施している定期的な管内のしゅんせつ予定延長であり、これを最低限の延長と判断しているため。	目標値	21.2	21.2	21.2	21.2	21.2	21.2			
	実績値	26.5	26.5	26.3	25.5	25.1				
	達成率	125.0%	125.0%	124.1%	120.3%	118.4%				

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	飲食店などが多く、油分が多く流れる箇所などの定期的な清掃・しゅんせつは、管の閉塞事故を未然に防ぐ観点から重要な維持管理業務である。 現在、定期的に行っている箇所は、約500kmある管渠延長の2%程度で、実施の必要な延長は増えているものの、近年の実施状況は横ばいとなっている。
-----------------------	--